

北のとびら

vol. 133

令和6年7月



空知北部
特集

特集 | ごまのはえ(ニットキャップシアター) interview

チェーホフも鳥の名前

第9回北海道戯曲賞大賞受賞公演

アート巡礼 空知北部エリア／つくる人in妹背牛町 水上明／ジモトデザイン 砂川市・お菓子のほんだ
マチカド芸術 赤平市『彫刻公園サキヤマ〜流政之彫刻作品群』／ART FILE 本田征爾

本作の舞台であるサハリン島に興味を抱いたきっかけを教えてください。

ごまのはえ そもそも始まりは10年以上前に、チェーホフの戯曲を題材にした作品づくりを京都府立文化芸術会館から持ちかけられたことでした。当時僕は30代前半。若手の演劇人が古典に触れる機会を作ろうという試みだったのだと思います。作品づくりのために改めてチェーホフの作品を読み進めていたところ、チェーホフの著書「サハリン島」に出会いました。

「サハリン島」は戯曲ではなくルポルタージュなのですね。

ごまのはえ そうです。30歳のチェーホフが単身でシベリアを横断し、サハリン島を訪れたのは1890年。当時のサハリンはロシアの流刑地で、政治犯や犯罪常習者などが暮らしていました。チェーホフは優れた文学者であり、医師です。「サハリン

島」は、チェーホフの科学者としての視線で当時の島の様子を克明に調査したもので、物語的な面白みは正直ありません。けれど北方少数民族と呼ばれる人々の暮らしや、日本人との関わりが見えたり、「世の中を良い方向に変えていきたい」というチェーホフの思いを感じ、私はそこから「三人姉妹」のセリフの原型を連想したりして、読み進めるたびに興味を引かれていきました。「サハリン島」という島の存在を、チェーホフに紹介されたような感覚でした。

チェーホフにとっても、サハリン島を訪ねた経験は大きかったのではないかと。

ごまのはえ チェーホフは兄弟が多く、創作をしながら家族の生活を支え、ようやく評価された時にはすでに結核に侵されていました。それでも病をおして、モスクワからサハリンまで足を運んだということに「サハリンにこそロシアの社会問題が凝

縮されている」という彼の強い思いを感じるんです。チェーホフの作品は皮肉が過ぎているものが多いのですが、「サハリン島」で見えてくる彼は非常に熱血漢。とにかく社会を改良していかたいと願う真面目な人物であることがわかるんです。

本作では、政治体制が異なるそれぞれの時代に暮らす人々を描いています。

ごまのはえ 時代を動かした偉人の手柄話ではなく、その時代の政治や社会の影響を受けて右往左往する市井の人を描きたいと思っ

ています。僕自身40年以上生きてきて、市民として様々な総理大臣を見てきました。もし現代を舞台にした作品を誰かが作った時に、総理大臣のように上に立つ人を主役にしてこの時代を描いたら、僕は腹が立つと思うんですよ。それよりも僕らを見てくれよ、と。個人的な話になりますが、僕は大学卒業後に「やりたいことをやるんだ」という自分の意思でフリーターを選択しました。いや、選択したつもりでした。けれど、後から考えるとその行動は、大企業

が正社員を雇えないという思考と一致していて、ある意味では新自由主義を下から支えていたのかもしれない。支えたつもりはないのに、「あの人たちの」経済政策を支えていたのではないかと。自分の好きなことを自分で選んできたつもりでも、実は大きな力の影響を受けているのではないかと。そんな残酷さを感じます。

領有権が変わるたび、サハリンや樺太と呼ばれ名も変わるなど、島で暮らす人々も右往左往せざるを得なかった人たちですよ。



●ごまのはえ

大阪府枚方市出身。ニットキャップシアター代表。京都を創作の拠点に大阪、東京、福岡、名古屋などの各都市で公演を続けている。

2004年『愛のテール』でOMS戯曲賞大賞、2005年『ヒラカタ・ノート』でOMS戯曲賞特別賞及び新・KYOTO演劇大賞、2007年京都府立文化芸術会館『競作・チェーホフ』にて最優秀演出家賞を受賞、『チェーホフも鳥の名前』で2020年、第64回岸田國士戯曲賞最終候補、2023年北海道戯曲賞大賞を受賞。一般社団法人毛帽子事務所役員。一般財団法人地域創造派遣アーティスト。

●ニットキャップシアター

芝居／語り／ダンス／民族楽器の生演奏／歌／仮面や布などのマジカルグッズ……様々な舞台表現と「言葉」とを組み合わせ、イメージーションあふれる作品を生み出す京都の劇団。「ガラバゴスエンターテインメント」という言葉を大事に、創作を続けている。1999年旗揚げ。劇団名はムーンライダーズの楽曲『ニットキャップマン』より。

特集 | ごまのはえ (ニットキャップシアター) interview

チェーホフも鳥の名前

第9回北海道戯曲賞大賞受賞公演



「チェーホフも鳥の名前」は、サハリン(樺太)を舞台に、国同士の思惑に振り回される街と人々の暮らしを描いた約100年の物語。2024年8月に念願の北海道公演を控える、ニットキャップシアター代表・ごまのはえさんに、話を伺いました。

北海道での公演を実現した北海道戯曲賞受賞

【ごまのはえ】 日露戦争後、日本はロシアからサハリン島の南半分を譲渡され、そこで暮らしていた北方少数民族の同化教育が行われました。自分たちは一体何者なのか、と彼らの民族的なアイデンティティを蝕んでいくような状況には、資料を読んでも胸が苦しくなりました。歴史に翻弄された人々の100年の物語を書こうと思

い至った理由の一つでもあります。

「チエーホフも鳥の名前」の創作には、「サハリン島」以外にも参考にした資料はありますか？

【ごまのはえ】 チエーホフの伝記やサハリン島の資料はかなり読みましたね。チエーホフがサハリン島を訪れる第一幕と、日露戦争後に日本領土になった樺太に宮沢賢



2022年にアイホール（伊丹）で再演した際の舞台写真

治がやってくる第二幕は資料も豊富だったのですが、終戦後にGHQが日本を間接統治してからの第三幕を描くための資料が非常に少なく、一冊だけ、ソ連支配下にあった1940年代の樺太に足止めをされて帰国できない日本人のことを記した書籍があり、これは非常に参考になりました。第四幕に関しては、資料として

使ったわけではありませんが、芥川賞作家であり樺太出身の李恢成さんの「サハリンへの旅」を読みました。樺太で離れ離れになつてしまったご家族を訪ねる長編紀行なのですが、非常に感銘を受けました。

工ユキ。」。南参さんや、演劇の制作者として活躍されているラボチの小室明子さんとはかなり長い付き合いになります。弦巻啓太さん（弦巻楽団）や、劇作家の遠藤雷太さん（エンブ）との交流もあり、札幌との関わりは多いと思います。また、日本劇作家協会の北海道支部の動きも非常に活発で、コロナ禍で3年に渡り開かれた戯曲創作講座（日本劇作家協会北海道支部・北海道文化財団共催）で講師を務めさせていただきました。

【ごまのはえ】 サハリン島を舞台にした物語なので、北海道でも公演がしたいという思いがあつて北海道戯曲賞に応募したので、非常に嬉しかったです。家族で食事中に受賞の連絡を受けて、喜んだことを覚えています（笑）。

札幌での公演こそ少ないですが、札幌との関わりは深い印象があります。

【ごまのはえ】 札幌で公演したのは、10年以上前に札幌の劇団「Yhs」の南参さんの戯曲を私が演出した作品でした（2013年）消

演されます。

「チエーホフも鳥の名前」は8月29日に大空町での公演もありますね。ごまのはえさんは大空町でも何度かワークショップをされていますよね。

【ごまのはえ】 大空町との縁は、以前、大空町教育文化会館の館長をされていた勝田さんとの出会いをきっかけに始まったものです。地域の文化・芸術活動を支援する「一般財団法人地域創造」

という、私自身もよく仕事を一緒にする団体が東京にあるのですが、勝田さんは大空町から2年間派遣されていました。現場で何度も顔を合わせるうちに親しくな

り、勝田さんが大空町に戻り、教育文化会館の館長に就任された時、ワークショップの企画を持ちかけてくれました。昨年は戯曲講座や、珍しい楽器を使って効果音をつける朗読会など、5回

に渡りワークショップを開きました。親しみのある町での公演はとても嬉しいですね。北海道には樺太にルーツを持つ人がたくさんいらっしゃいます。北海道での公演が非常に楽しみです。

【ごまのはえ】 日本とロシアの間で何度も領有権が変わったあの島には、日本人やロシア人だけではなく、先住民の人たち、終戦後にサハリンに残されてしまった朝鮮人など政治的な事情に翻弄された人々がいました。そうやってサハリン島には渡り



家族旅行で北海道を訪れることが多いというごまのはえさん。初めての北海道旅行は礼文島だったそう。「昨年も、子供たちを連れて新千歳空港からレンタカーで知床まで行きました。かなりの長距離ドライブでしたよ（笑）」

鳥の一つだという思いから、「[は]ではなく[も]とつけました。本作は、チエーホフの「サハリン島」を下敷きにしたフィクションではありますが、「こういう人たちがいた」ということを感じていた

information

ニットキャップシアター 第45回公演

チエーホフも鳥の名前

[作・演出]ごまのはえ

[出演]門脇俊輔、澤村喜一郎、仲谷萌、西村貴治、山谷一也、石原菜々子(kondaba)、大路絢か(原脈)、千田訓子(万博設計)、山岡美穂[パーカッション]田辺響 [歌]黒木夏海

【日時】 2024年8月24日㊦・25日㊦ 13:00開演
24日はアフタートークあり ※開場は開演の30分前 ※上演時間：約3時間（途中休憩あり）
【会場】 クリエイティブスタジオ（札幌市民交流プラザ3階）札幌市中央区北1条西1丁目

【日時】 2024年8月29日㊦ 18:30開演
※開場は開演の30分前 ※上演時間：約3時間（途中休憩あり）
【会場】 大空町教育文化会館（大空町女満別西3条4丁目1-11）

STORY 日本とロシアに挟まれた島、サハリン。この島に「チエーホフ」と名付けられた街があるのをご存知でしょうか。ロシア人、日本人、朝鮮人、ニヴフやアイヌなどの北方民族——この街に暮らした様々な人々が、ときに国家間の思惑によって翻弄されながらも生活する様子を、アントン・チエーホフや宮沢賢治ら、かつてこの島を訪れた作家達の眼差しとともに辿ります。



詳しくは
こちら

- 札幌公演に関するお問い合わせ
（公財）北海道文化財団 TEL 011-272-0501（9:00～17:30 土日祝日を除く）
- 大空公演に関するお問い合わせ
（一財）大空町青少年育成協会
TEL 0152-74-2367（9:00～17:30 月曜・祝日を除く）

ロング版
インタビューを
WEBで公開中



wavetimes+
でもインタビュー
掲載中



ワークショップで縁のあった大空町での公演

空知北部で探すアート

11 町内サークルの作品が並ぶレンガタイルの道 暮らしの安心センター「なかみち」



暮らしの安心センター内のレンガタイルの道「なかみち」に沿って展開するギャラリー。絵画や写真、短歌など、町内のサークルで制作された作品を展示しています。

10 昭和ノスタルジーを楽しむリサイクルショップ スマイル北竜本店



昭和レトロを中心に、珍しい生活雑貨やおもちゃなどが並びリサイクルショップ。昭和の名車も多数展示しています。幅広い世代にレトロ文化を楽しんでもらうために人気Vtuberとのコラボ企画も始動。

09 日本を代表する書家の作品が並ぶ 辻井京雲ギャラリー 墨響



雨竜町出身の書家・辻井京雲（けいうん）の作品を常設展示するギャラリー。展示は大作から小品まで20点で、新作や未発表作なども含め随時展示替えをしています。

08 小学校を改修したギャラリー+アトリエ 五十嵐威暢美術館 かぜのび



美しい田園風景に囲まれ、ゆったりとした空間でアートを楽しむことができる、彫刻家・デザイナーの五十嵐威暢のアトリエ兼ギャラリー。ワークショップも開催しています。

07 料理を待つ間にギャラリーで過ごす贅沢な時間 ギャラリー陶居&caféオルノ



やわらかな曲線美がぬくもりをもたらす陶芸家・大野耕太郎の作品が並ぶギャラリー兼カフェ。カフェで提供するチーズ料理やコーヒーの器もすべて同氏の作品です。

06 開放的な空間で読書を楽しむ癒しのひととき 北菓楼砂川本店



「北菓楼の森」と「洋風庭園」が併設する砂川本店は落ち着いた癒しの空間。書棚を設置した喫茶フロアでは読書を楽しむことができます。

05 炭鉱の町・上砂川の歴史を見る かみすながわ炭鉱館



上砂川市に炭鉱が存在した歴史を展示。世界でも珍しい水力採炭の模型や、当時の暮らし、採掘の様子などを学ぶことができます。お盆期間も開館中。

04 ヨーロッパや北海道の風景画約50点を常設展示 芦別市カナディアンワールド 石岡剛の世界美術館



北海道を代表する洋画家・石岡剛の私設美術館。「石岡の赤」と言われる大胆な色彩が特徴の風景画や石岡自身が収集したヴィンテージコレクション等を展示しています。

各施設の詳細は
WEBで公開中



刺激がいっぱい

空知北部のアートスポット

01 画家・高橋要の作品470点以上を展示 ぬくもりの里 芸術文化交流施設 向陽館



廃校を利用したアートギャラリー。体育館に展示中の10メートル超の未完の大作『想像の大地(生命)』は、高橋要が1999年から制作に入り、30年かけて2029年に完成予定です。

02 秩父別町出身の反戦画家の美術室 善性寺丸木位里・俊美術室



反戦画家・丸木俊の生家である善性寺に創設した美術室。水墨画家である夫の位里との共作「原爆の図」をはじめ、油彩画や水墨画計30点を展示中です。

03 町内で活躍する5人の作家の作品を展覧中 手作り雑貨・かのん



町内で清掃業を営むアイドルが展開する手作り雑貨店。飾り雑貨、布小物、アクセサリ、編み小物、羊毛フェルトなど約500点を展示・販売しています。

日常に溶け込むデザインの魅力に迫る！



▶パッケージデザインを担当した佐藤さんが心がけているのは、情報を盛り込み過ぎないこと。「香西農園のおいもと紅玉りんごのパイ」は素材の良さを活かした商品ということで、デザインも極力シンプルにと考えたそう。



「また会いたくなる」お菓子
「香西農園のおいもと
紅玉りんごのパイ」

砂

川市内を通る国道沿いをメインに、菓子メーカーや菓子店が軒を連ねるその街並みは「砂川スイートロード」と呼ばれ、観光客からも注目されています。そのエリアにあって、老舗のほんだ菓子司が誇るのはりんごを使ったお菓子。中でもアップルパイは評判で、「アップルパイといえばほんだ、ほんだといえばアップルパイ」と多くの人が思い浮かべる看板商品です。

「りんごのお菓子を日本一を目指す」をモットーに、北海道産の素材と自家製にこだわった商品開発に取り組む中で生まれたのが「香西農園のおいもと紅玉りんごのパイ」。同社3代目・代表取締役の本田啓輔さんに商品作りのきっかけを尋ねると「当時、北海道でほとんど生産されていなかったさつまいもが滝川で生産されていることを知り、新しいお菓子を作ってみよう

考えました。さつまいもは私たちが得意とするりんごやパイとの相性が良く、組み合わせることでおいしい商品が作れると確信したからです。

商品力をより高めてくれるつながりパッケージデザイン展2015」に出展して広くデザインを募りました。そこに応募したのがアートディレクターの佐藤健一さん（現在AMAYADORI代表）でした。デザインは見事グランプリを受賞。「さつまいもの優しい甘さと、りんごのほどよい酸味が融合した、このおいしさをどう表現すべきかと考えた時に、文字通りさつまいもとりんごを合体させたビジュアルが思い浮かびました」と語ります。とはいえ、すぐにはピンとこない不思議なアイコン。しかし、それも佐藤さんの「狙い」だったそうで「少し眺めているうちにさつまいもとりんご…ああ、なるほどと、認識できる

マークにしたんです。『?』（疑問）から『!』（発見）の流れを作ること、印象に残るパッケージデザインを目指しました」。同時に、文字が読めない小さな子どもや、日本語が分からない外国人にも理解できることから、このデザインに着地。佐藤さんは、初めての打ち合わせで本田さんがかけてくれた「デザイナーさんが考えたデザインですから、このまま修正せずに作りましょう」の言葉に感動したことを今でも覚えていると言います。商品のおいしさはもちろんのこと、「本田さんが信頼し、尊重してくれたからこそパッケージデザインの強さやインパクトをキープできた」と振り返ります。



◀おいしさはもちろんのこと、見た目も気になる素敵なお菓子が並ぶ店内。写真は昨年リニューアルした滝川サロン。



DATA

ほんだ菓子司砂川本店／北光工場 砂川市西1条北11丁目 TEL0125-52-6321
ほかに市内と滝川市、美唄市、深川市、岩見沢市に店舗を展開 https://shop.ringo-club.jp



妹背牛町「わかち愛劇団」代表 水上明

北

北海道で3番目に小さな町・妹背牛町では毎年、町内外から多くの観客が訪れる人気の町民劇が開催されています。「休演はコロナ禍だった2020年の一度きり。昨年は10回目の節目を迎えました」と話すのは「わかち愛劇団」の代表・水上明さん。認知症をテーマにしたオリジナルの介護劇を公演する町民劇団で、水上さん自身も俳優として舞台に立ち続けています。



水上明（みずかみ・あきら）

1935年妹背牛町生まれ。2015年に「わかち愛劇団」を結成し代表に就任。NPO法人わかち愛もせうし理事長として、福祉によるまちづくりにも力を注ぐ。
●わかち愛劇団
今年の公演は2024年11月17日（日）。
NPO法人わかち愛もせうし
TEL:080-8294-8937

く、「認知症の理解を深めたい」と考えた当時の健康福祉課の主幹・河野和浩さんが、介護相談員をしていた水上さんに相談したのが、劇団立ち上げのきっかけです。
河野さんと水上さんは、認知症と介護に関心をもってもらうための手段に演劇が有効ではないかと考え、福祉関係者とともに10分程度の寸劇を披露。「これが思いのほか好評で、2013年には渡辺さんに脚本・演出を依頼して初公演を行ったところ大盛況。初舞台を踏んだ出演者たちも継続に意欲的で、翌年も公演することになりました」と、出演者や観客の熱意と期待に背中を押されて2015年、正式に劇団を結成しました。
2017年には深川市での遠征公演も実現。「数年続けられれば良いと考えていましたが、毎年楽しみにしていると声をかけられ、コロナ禍を乗り越えて10年以上続



◀舞台に立つ水上さん（左）。水上さんは認知症患者の役を任されることが多いという



半醒半睡で見る白昼夢にインスピレーション

京 都で生まれ育った私は、海への憧れと海洋生物への興味から、北海道大学水産学部へと進学しました。大学卒業後は、まぐろ延縄調査船に乗船。幼少期より絵を描くことが好きだった私は、必要最低限の水彩道具を持参して船に乗りました。

延縄にかかる魚は胃袋の中も調べます。そうすると、丸呑みされた深海魚など、珍しい魚がたくさん出てきます。船内での作品制作のモチーフになったのは、そうした珍しい魚たちでした。船内では



水も貴重品。作業スペースも限られているので、わずかな水を使いながら、小さな机の上で、小さな絵を描き続けました。私の作品の多くが比較的コンパクトなサイズなのは、船内の限られたスペースで絵を描いた経験が大きく関係していると思います。

下船後は京都で初めての個展を開催。その後も、乗船と個展を繰り返す生活を約10年続けました。インターネットや電話を減多に出来ない船内での暮らしは、自分と向き合う時間がありました。海上で自問自答をしながら、創作活動をする中で出した答えが、妻が働いていた札幌を拠点に作家活動に専念することでした。今はもう船に乗ることはありませんが、船上での経験は私の作家活動の原点です。

私は抽象とも具象ともつかない半具象的な表現方法を好んでいます。水彩やアクリル、油彩、平面、立体など、素材や技法に

は特にこだわりはありません。

基本的に陽の明るい時間に創作して、日中に少しだけ昼寝をします。半醒半睡の中で見る白昼夢のようなものからインスピレーションを得ることが多いです。妻や愛犬、音楽、詩など暮らしの中での出来事も、直接的ではないけれど、無意識に刺激を得て作品に反映されることもあります。また、私は毎日、カードサイズの絵を日記のように描いています。無心で机に座って手を動かす、その時々線の動きや滲みなどからヒントを得て、描き始めてから、何を描くのかを決めることもあります。

今回の個展のテーマは「天国惑星」。これは言葉遊びが好きで作った造語ですが、ここ4～5年の間に描き溜めた作品の中から、天国や天使、星のモチーフを扱った作品を展示しています。アートのスペースの広い壁を使って、額を変えたりランダムに配置

するなど、流れのある展示になっているので、楽しんでいただけると嬉しいです。

札幌で暮らし始めて20年以上経ちますが、装丁の仕事や新聞連載の挿絵、ジャケットのアートワークなど、ここ最近楽しい依頼が増えています。船に乗っていたので、創作の場に強いこだわりがあるわけではないけれど、四季にメリハリがあり、季節それぞれの気候が心地の良い札幌は好きです。雪が降ると今でもワクワクします。この街で暮らしていたからこそ生まれた作品も決して少なくありません。

本田 征 爾

長岡京育ち、札幌在住。主に透明水彩、アクリル、ガッシュ、油彩による平面作品、石粉粘土による立体作品を制作。素材やテーマ、コンセプトには特にこだわらず、此岸と彼岸の狭間に、ちょっと怖くて、愛らしくて、浮遊感のある、小宇宙的作品群を制作。掌の中から指先に小さな喜びを脳内感応させて全身から湧きあがるささやかな恍惚感を大切にしている。2023年「GALLERY HOUSE MAYA 第22回 装画を描くコンペティション」グランプリ受賞 ●インスタグラム @whisperinstone

入場
無料

北海道文化財団アールスペース企画展 vol.56

本田征爾展『天国惑星』

2024.6.18～8.26 9:00～17:00 ※土日祝休館 ※都合により臨時休館する場合があります。

場所／札幌市中央区大通西5丁目11大五ビル3F 問い合わせ／011-272-0501



詳しいSTORYはWEBで



赤平市のエルム高原家族旅行村に建つ世界的彫刻家・流政之の作品「SAKIYAMA」。敷地内には全10基の彫刻が点在し、「彫刻公園サキヤマ」と名付けられて親しまれています。

財団事業

●北海道戯曲賞 作品募集

「北海道戯曲賞」は全国に門戸を開き、次代を担う劇作家や優れた作品を発掘するとともに、道内外の作家が互いに競い合うことにより、北海道における演劇創作活動の活性化を図ることを目的としています。

また、大賞受賞作品は受賞記念公演として上演します。



応募締切: 令和6年9月2日(月) 当日消印有効

1次審査: 令和7年1月15日(水) 予定

最終審査: 令和7年3月10日(月) 予定

詳しくはこちら→<https://haf.jp/gikyoku.html>

●「人づくり本木基金事業」顕彰事業

令和6年度「ものづくり本木選奨」推薦募集

工芸美術及びものづくり等の分野において、その向上発展に関し功績が顕著な個人又は団体等を顕彰します。

募集締切: 令和6年12月6日(金)

詳しくはこちら→https://haf.jp/ippongi/fund_recognition.html

●「人づくり本木基金事業」海外研修支援事業 令和6年度「研修生」募集

将来の活躍が期待できる道内在住、又は道内出身者を対象に、海外において研修を受ける方に対して助成します。

募集締切: 令和7年3月14日(金)

詳しくはこちら→https://haf.jp/ippongi/fund_overseas.html

●「北海道舞台芸術情報フェア」の開催

舞台芸術の公演企画の最新情報を道内の市町村や文化施設等に提供し、次年度事業の検討に資するとともに、文化施設等と公演企画団体の相互の連携を図ることを目的として開催します。

日 時: 2024年9月25日(水) 10:00～16:00

会 場: ホテルポールスター札幌

対象者: 市町村及び市町村教育委員会の文化事業担当者

文化施設の事業担当者

文化団体・舞台芸術鑑賞団体の担当者

企画を応募した公演企画団体等の担当者 等

参加料: 1,000円

申込方法: 北海道文化財団ホームページ「お知らせ」ページによりお申込みください。

申込締切: 公演企画団体 令和6年9月4日(水)

市町村等 令和6年9月11日(水)

問い合わせ: (公財)北海道文化財団 ☎011-272-0501

●「舞台芸術ネットワーク会議」の開催

北海道文化財団が令和7年度に募集する事業の案内や、専門家を招いた講演会等を実施し、市町村や各文化施設等の担当者に有用な情報を提供するとともに、芸術文化関係者が相互に連携できるネットワークの形成を図るために開催します。

日 時: 2024年11月20日(水) 13:00～16:00

会 場: 北海道立道民活動センターからで2.7 大会議室

内 容: ①基調講演

講師: 靄山勝人(長久手市文化の家事業係演劇担当 舞台照明デザイナー)

②北海道文化財団 令和7年度事業募集案内

対象者: 市町村・市町村教育委員会の文化事業担当者

文化施設の事業担当者

文化団体・舞台芸術鑑賞団体の担当者

参加料: 無料

申込開始: 9月中旬

申込締切: 令和6年11月13日(水)

問い合わせ: (公財)北海道文化財団 ☎011-272-0501

公演情報

●ハイバイ「ワレワレのモロモロ2024札幌東京編」札幌公演

「ワレワレのモロモロ」は、参加者が自分の身に起こった出来事を書き、それをそのまま演劇化して本人を中心に演じるオムニバス演劇企画です。構成・演出・脚色: 岩井秀人(「ハイバイ」主宰)



日 時: 2024年8月8日(木) 19:00

9日(金) 19:00

10日(土) 13:00、18:00

11日(日) 13:00

会 場: ジョブキタ北八劇場

料 金: 前売/一般 4,800円、U-30 4,000円

U-20 3,000円、ペア 9,000円

当日/一般 5,000円

詳しくはこちら→<https://hi-bye.net/play/waremoro2024>

●ヨーロッパ企画第43回公演「来てけつかるべき新世界」

第61回岸田国土戯曲賞受賞作

作・演出: 上田誠/音楽: キセル

出 演: 石田剛太 酒井善史 角田貴志 諏訪雅 土佐和成

中川晴樹 永野宗典 藤谷理子 金丸慎太郎 町田マリー

岡田義徳 板尾創路

企画・制作: ヨーロッパ企画/オポス

日 時: 2024年11月9日(土) 13:00

会 場: カナモトホール

料 金: 一般 7,500円

U-30(前売のみ) 2,500円

※全席指定・未就学児入場不可

詳しくはこちら→<https://www.europe-kikaku.com/e43>

●劇団動物園『さよなら方舟』札幌公演

北見を拠点に36年にわたり活動が続けている劇団動物園が、2023年に地元で初演し好評を博した『さよなら方舟』を札幌で上演します。

【作品介绍】

とある事情で久々の再会を果たす三姉妹。思いもよらぬ出会いが新たな世界を目指すことに…。ある家族に焦点をあてた物語。

脚 本: 山岡徳貴子(魚灯)

演 出: 松本大悟(劇団動物園)

出 演: 劇団動物園

日 時: 2024年11月23日(土) 19:00、24日(日) 14:00

会 場: 扇谷記念スタジオ シアターZOO

問い合わせ: 劇団動物園事務局 ☎080-1898-4921

atoriedoub2en@gmail.com

INFO



WEBマガジン「北のとびら」。冊子にはない情報も!ぜひご覧ください。

WEBマガジンはこちらから! <https://haf.jp/kitanotobira/>